



北中だより



<http://nk-kitanaka-j.la.coocan.jp/>

中野区立北中野中学校

★令和4年度がスタートしました。

校長 津村 慶

新型コロナウイルスが私たちの日常を一変させてから2年が経ち、「With コロナ」の生活も3年目に入ります。スポーツやイベントにおける入場制限が条件付きながらも一部で撤廃され、飲食に関する規制も徐々に緩和されつつありますが、学校という多くの仲間と過ごす集団生活の場を確保し、可能な限り対面での教育活動を維持していくために、北中野中学校では今年も、これまでと同様の感染防止対策を継続していきます。そして「できない」ではなく「どうすればできるか」を考えながら教育活動を進めていきます。生徒の皆さん、保護者の皆様には「コロナ慣れ」によって気持ちを緩めることなく、引き続き毎日の健康観察とマスクの着用、手洗いや手指消毒の徹底をよろしくお願いいたします。また、校内での感染拡大を防ぐため、体調の変化や風邪に似た症状がある時、ご家族が発熱した時などには早めに登校を控え、自宅で様子を見るよう、引き続きご協力をお願いいたします。

さて、昨年度は開校60周年として様々な記念行事を行ってきました。今年度は次の10年間に向けた新たなスタートとなります。その様な年に、本校は「中野区学校教育向上事業・研究指定校」として新たな取組を始めていきます。研究のテーマは「新たな生徒指導の在り方」です。新しい学習指導要領での学びが、小学校・中学校に続いて高等学校でも順番に始まります。生徒が身につけるべき力が「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」として示され、そのための授業や評価の仕方も変わり、一人一台端末の活用も定着してきました。そのような中で、学校生活のあらゆる場面に焦点を当てて、新しい時代の学校生活・教育活動・生徒指導の在り方を考え、研究を進めていきます。研究を行うのはもちろん教職員ですが、生徒の皆さんにも「自分たちの学校生活を自分たちの手でより良いものにしていく」という意識で協力してほしいと考えています。

現生徒会本部役員が考えてくれた北中生徒会活動のテーマは「共創」です。生徒同士が力を合わせるのはもちろんですが、それだけではなく生徒と教職員、教職員と保護者、学校と地域が、共に力を合わせて新しい北中野中学校を創造していく。そのような取組がこの研究を通して形になっていくことを期待しています。



北中野中学校は、地域に根ざした学校として保護者や地域の皆様との関わり合いを大切にし、多くのご理解とご協力をいただきながら教育活動を進めることで、生徒たちの健やかな成長と多くの学びを支えていきたいと考えております。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

新 入 生 誓 い の 言 葉

春らしい和やかな空気、やや大きめの制服とともに北中野中学校の門をくぐりぬけ、私たちは晴れて中学生となりました。本日は、このような立派な式を開いてくださったことに心から感謝いたします。

私たち新入生は、小学校六年間の生活で物事の基礎を学んで卒業しました。そのためにこれからの生活では、それらを生かし充実したものとしていきたいです。例えば、部活動ではこれまで経験のない学年を越えた活動ができるので、とても楽しみな気持ちでいっぱいです。

これから始まる生活において、私が大切にしていきたいことは「初心にかえる」ことです。先ほど述べたように、中学校生活は楽しみではありますが、その反面、新たに友だちをつくることができるか、クラスに馴染むことができるかなどの不安な気持ちもあります。しかし、その一方で趣味の合う子に出会えるかも、という期待もあります。

私が小学生だったときの担任の先生は、日々の積み重ねについてよく語ってくださいました。例えば、毎日少しずつでも善い行いを続けていけば、必然的に善い人になる。しかし、少しずつでも悪い行いを続けていけば、悪い方に進んでしまうということです。人間関係の大切さをさまざまご教授くださいました。これらは当たり前のように思えますが、とても大切な考え方で、この考え方がないと、集団は恐らく崩壊します。しかし、初心、例えば今の不安と期待の入り混じった気持ちを忘れなければ、互いに思いやり、支え合える仲間になれるはずです。私は、いつ、いかなるときも、初心を忘れず仲間を大切に中学校生活に臨んでいきたいです。

中学校の三年間は心も体も大きく成長していく時期だと言われています。移動教室などの宿泊学習、仲間とともに協力して行う部活動、メリハリが必要な勉強を通して、三年後の今頃には、今はやや大きい制服に似合う立派な体、立派な心になれるよう成長していきたいです。

同級生の皆さん、これから共に高め合い、励まし合い、初心を忘れず努力が絶えない学年を目指していきましょう。

先生方、先輩方、そして保護者の皆様、北中野中学校を背負うに恥ずかしくない生徒になっていきたいと思えます。今日から卒業する日まで、よろしく願いいたします。

令和四年四月七日

新入生代表 1年C組 S・Y



歓迎の言葉

日に日に暖かくなり始め、春の日差しが心地よく感じられる頃となりました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生一同、皆さんの入学を心待ちにしていました。皆さんは今、これから始まる学校生活に期待するとともに、慣れない環境に対して悩みや不安など様々な思いを抱えていることでしょう。三年生の私もそうでした。しかし、学校の行事をはじめ、日常生活での仲間とのかかわりで少しずつ解消されていきました。5月には、軽井沢移動教室や運動会があります。このような行事を通して、仲間との絆を深めることができると思います。さらに、北中には素敵な先生方や先輩がいます。北中の先生方は、一人ひとりをよく見てくれています。何か困ったことや悩みがあればぜひ相談してみてください。必ず力になってくれます。

さて、ここからは私が二年間過ごしてきた中で感じた中学校生活で大切にしたいと思う二つのことをお話しします。

一つ目は「あえて苦手なことにも積極的に取り組んでみる」ということです。私は小学生の時、あまり表に出ないタイプで、人前で話すことも苦手でした。しかし中学生になって生徒会役員をやってみると、学校に何か貢献できるということに喜びを感じられるようになり、今では楽しく仕事に取り組むことができます。私の場合、「苦手なこと」つまり「やったことのないこと」を「不可能なこと」と思い込み、苦手なことから逃げていたのだと思います。苦手なことから逃げるということは、自分の中にある可能性を封じ込めてしまうことにもなります。ですから、苦手なことにもあえて取り組んでみてください。そうすると、おのずと自分に自信もついてくるはずです。

二つ目は「行事には全力で取り組む」ということです。中学校での行事は小学校とは大きく異なる点があります。それは生徒に任されていることが非常に多いという点です。小学校では先生の指示のもとで行動することがほとんどだったと思いますが、中学校では生徒が中心となって取り組みます。例えば学年球技大会の種目やルールは生徒が決めます。さらに、当日の運営も生徒が行います。小学校の時のように、大人に頼るのではなく、自分たちの力で創り上げていきます。最初から最後まで自分たちだけでやり遂げることは大変なことでもありますが、その分、達成感や楽しさを感じることができ、とても思い出深いものとなるはずです。また、皆さんもご存じかと思いますが、この二年間は新型コロナウイルスの感染が拡大した影響であまり行事ができませんでした。その時、今まで当たり前のように行われていた学校行事の大切さに気づかされました。学校行事は学生時代ならではのものです。ぜひ、全力で取り組んでください。



中学校の三年間は思っているよりもあっという間だと思えます。ですから、この三年間を決して無駄にせず、多くのことを学び、経験してってください。卒業する時に、楽しかった、充実していたと思えるような三年間になることを祈っています。さあ、今日から私たちとともに楽しい中学校生活をスタートしましょう。これをもって歓迎の言葉とさせていただきます。

在校生代表 3年C組 N・S